

第1群の座長をつとめて

村 上 一 枝

(社会保険鳴和総合病院)

第1群(臨床看護研究Ⅰ)は実験研究と調査研究に関する5題の発表であった。

第1席の萬徳鈴美さんは、MRSAの血液寒天培地を用い、真空パルス式殺菌装置により時間と温度の条件を変えベッド・マットレスの細菌学的効果と殺菌処理の効率的な条件をみるための実験研究であった。

会場の質問で判明したが、ベッド・マットレスは一次消毒としてクリンライザーを使っているという条件や、ベッド・マットレスの付着菌ではなく、MRSAの培地を殺菌試験に用いた根拠や、メーカーの指定した温度、時間を今回設定を変えて行った理由等、実際条件設定により結果が違ってくると思われる。牧本先生の指摘にあったようにベッドの使用年数や、マットレスの種類等材質による汚染度の違いや器材器具の汚染部位によって消毒前後の効果の違いはないものか。更に研究を続けて報告していただきたい。

今年は社会的にいろいろな感染症が話題を集めた年である。それぞれの施設で院内感染防止対策の充実に力を注いでいると思われるが、4月から診療報酬改定で院内感染防止対策加算(入院環境料の加算)一日につき5点加算される。MASAは空気汚染の拡散がある。易感染性患者の伝播を防ぐ援助方法を常に考えていきたい。

2席の上野谷優子さんは、申し送り廃止1年後にリーダー業務を行っている看護婦17名を対象に、情報収集源として活用している記録が何かということ、毎日の看護記録(2号用紙の問題の明確化)の記録状況を把握する研究であった。

看護記録の定義は「看護過程の実施を証明するもの」と言われるが、現状における問題点として看護実践への活用の困難さや、記録をケアにどう生かすかといった点である。今回の研究はまさにその問題点を探る実態調査で意義があったと思われる。

看護情報収集源として最も活用していたものはカードックスと処置板でしたが、看護問題リストの記録はあまり活用されていなかった。このことから、今後は問題リストの活用しやすい情報収集用紙を是非工夫し、続報を期待する。

会場からは多くの質問があり発表者と会場が一体となりとても良いディスカッションとなった。

3席の岩田雅代さんは褥創発生の危険性の高い患者と既に褥創を保有している患者59名に仙骨部接触の値を比較した。オムツ内外の接触圧差は褥創の有無により有意差があった。又体圧分散寝具の使用が褥創発生率を減少させ、仙骨部接触圧を有意に減少させたということも興味ある研究でした。

医療の高度化、高齢化に伴い褥創発生リスクの高

い患者は診察科、急性期、慢性期を問わず臨床で数多く遭遇する。

発生してからのケアより発生を未然に防ぐケアこそが看護の力であり、それが看護の質につながっていくと考えられる。

会場からはオムツの材質や枚数についてと対象患者のADLレベルについての質問があった。今後、エアマットレス以外の条件等も加え、更に研究を積み重ね報告して頂きたい。

第4席の藤田恵子さんは看護方式により、受持ち看護婦個々の責任の感じ方が異なるか。又看護内容により異なるかを調査した研究である。

「責任の感じ方」と言う看護婦の認識の4段階の測定指標は信頼性、妥当性、適切性と言う面で難しい部分がある。

3群共に責任を感じていた看護内容よりも、責任を感じているものが極端に少なかった看護内容(勤務日のケアの実施、毎日の記録、申し送り)がとても気になった。考察にもあったように受持ち看護婦としての責任の感じ方が看護方式だけのものか、患者の重症度や看護婦の経験年数、チームの中の役割等にも影響するものと思われる。

会場からは1フロアの単位(患者数、看護婦数)と、受持ち制である事を患者、主治医は知っているか、又、どういう形で紹介しているかという質問があった。これらも受持ち看護婦としての自覚や責任のあり方に影響するものと思われる。

第5席の藤田久美子さんは外来看護婦の接遇評価を勤務状況と患者背景との関連からアンケート調査した研究である。

勤務状況と接遇評価の関連はなかったが、患者の背景により評価が違った。

外来看護婦とはかく複雑な業務の中で流れを阻むことのないよう時間に対して敏感になる。しかし、外来看護も慢性疾患患者の指導や、在宅ケアが必要な患者を外来でフォローする事が多くなっている。

接遇に対する総合評価はよかったが今後、接遇の4つのカテゴリーを信頼性、妥当性等考慮し、評価が低かった部分を更に見直し外来全体のシステム作りにも取り組んで頂きたい。

各演題一つ一つについて牧本先生から研究的見方でわかり易い適切なご講評があり、私自身も学ぶことが多かった。

日頃忙しい業務の中、研究に取り組み発表に至るまでのご苦労、意欲に対し発表者、共同研究者の方に敬意を表します。また今回の座長の機会を与えて頂いた事に感謝します。